



発行人 東京都文京区湯島3-6-1 全国ラジオテレビ電機組合連合会  
編集人 東京商組編集委員会  
(定価 200円)

# 東京商組のうぶごぎ

No.589

令和元年度/事業計画	(2面)
組織増強	(2面)
東京商組の幹旋商品情報	(3面)
頑張る地域店	(4面)

## 第57回 通常総代会 福田理事長を再任 全議案を拍手で承認

東京商組は5月27日、第57回通常総代会を開催、総代75人中、本人出席54、委任状12で成立した。上程したすべての議案を拍手多数で承認するとともに、任期満了にともなう役員改選では、福田勝則理事長の続投を決めた。

総代会は、司会進行を中川紳一 副理事長が務め、松浦文明 副理事長の開会の挨拶で幕を開けた。開会に当たり、福田理事長は「理事長就任時に掲げた、3本の柱の中の1つである『組織増強』では、この2年間で30店の増店実績を果たした」などと挨拶した(別項参照)。

支店を代表して、中野支部の榎原智支部長に表彰状等が贈られた(2面参照)。議長に、板橋支部の松田隆全総代と、練馬支部の伊能成治総代を選出、議案審議に入った。

平成30年度の事業報告や決算、令和元年度の事業計画や予算、賦課金、役員報酬などを、拍手多数で承認した。

役員改選では、福田理事長が「役員48人全員が相互扶助の下、2年間、取り組んできた。皆さんの協力に感謝したい」と退任の挨拶をした。副理事長には中川紳一が推挙された。

この後、第一回理事会を別室で開催し、福田理事長の続投の期目を決めた。福田理事長は「引き続き、理事長を拝命した2年間、新執行部で覚悟を持って努めていきたい、協力をよろしくお願いしたい」と挨拶した。

約10日前に開催した推薦会議で承認を受けた候補者全員を、拍手で承認した。

このほか、スローガンの唱和や祝電披露なども行われた。来賓祝辞は、東京都議会議員の津田ひろ子氏、中山寛進氏、宇田川聡史氏のほか、東京都環境局地球環境エネルギー部の小川謙司部長、東京都中小企業団体系の野村一彦事務局長、放送サービス高度化推進協会の木村政孝業務執行理事、東京都家電流通協議会・日立グローバルインフレーションズ国内営業統括本部コンシューマ営業本部の永田則之関東ブロック長の7人が務めた(2面参照)。



満員の総代会会場

具体的な活動としては、都の家庭のゼロエミッション行動推進事業や5つ星家電買い替え促進事業、組織増強100作戦、全国電器商連の各種事業に積極的に取

### スローガン 一人は皆の為に皆は一人の為に 全員参加の組合を実現しよう



### 福田勝則理事長の挨拶 令和も100店増を目指す!

この2年間で、30店の増強ができた。目標の100店には届いていないものど、皆さんの協力の賜物と、心から感謝したい。

3~4月には、各地の支部長の店を訪問し、忌憚のない意見を伺うことができた。1日に3~5店訪問し、32人の支部長と会うことができた。支部長から

必ず目を通してください

東京商組版は皆さまの新聞です

### お知らせ

●「組織増強」「各種キャンペーン」などの組合事業に、積極的に取り組みましょう!

### お願い

■事務局から、全店に定期的に発送している各種資料やお知らせには、とても重要な情報が満載です。ぜひとも、お目通しください!

▽思い起こして見ると、組合活動が全盛期の頃、いろいろな問題や課題を抱えていたが、家電業界は活況を呈していた。そして、何と云っても商組員は、皆さん若かった。もちろん私もそうだった。最近、同業店を伺うと「もう年だからねえ」とか、「後継ぎがなかなかねえ」と言う方が増えてきている。その一方、昔と比べて「新しく電器屋を始めたい。自分の仕事にしたい」と考える人は、あまり聞かなくなった。これは大変なことである。我々の業界は、若い世代の方々にとって、魅力ある業種ではなくなってしまっているのかもしれないが、某メーカーでは社員が地域店起業を支援する社内制度があり、それに応募した方が制度に沿った研修カリキュラムを経て独立開業した3店の記事が業界紙に何回かに分けて掲載されていた。

▽昔ほど電器屋を始めたい人がいないが、一方で家族を持ちながら、安泰であるはずの大手企業を退職してでも、町の電器屋として地域社会に溶け込み、地元住民に寄り添いながら、少しでもお役に立ちたい、そして自分の働きがいや生きがいを実現しようとする一念発起し、独立開業する人がいる。心強い話ではないだろうか。だからこそ、これからのことに悩みを抱えている仲間や、新規開業で夢の実現を果たそうとする若い方々に対して、組合は1店でも多く商組員を増やし、商組員同士の相互扶助、共助の精神を、もっともっと育んで、団体の力を発揮できるようにしたいと思っています。

▽当支部でも、若い方に参加してもらおうと、いろいろと試行錯誤しながら、事業や行事に取り組んでいる。商組員2世の方は、自分にとって必要そうな組合本部主催の勉強会や、WING研修会などには参加してくれるのだが、支部勉強会・定例会・忘年会・総会、また親睦行事として実施したボウリング大会や屋形船などには、参加してもらえなかった。なかなか、うまくいかないのが現実である。

## 「単刀直入」

▽我が支部でも今後を見据えた時、若い力は絶対必要であり、若手2世の方々が魅力を感じてもらえるような青年部の発足が、必要と考えている。(東京っ子)